

平成 22 年度 事務事業事後評価調書 (平成 21 年度事業)

整理番号 10 - 45

1 事務事業の表示

: 該当

事務事業名		読書促進事業				
評価者	担当課名	教育振興課		担当係名	図書業務係	
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	高橋健仁	氏名	佐々木幸博	
事業の概要	多様な学習目的と複雑かつ高度化する生涯学習ニーズに対応するため図書の整備を行う。				全体計画	(平成 20 年度 ~ 24 年度)
					国・道支出金	千円
					地方債	千円
					その他	千円
					一般財源	23,010 千円
				事業費計	23,010 千円	
実施方法	直営		民間委託		その他 ()	
第 5 期 総合計画 (前期)			登載事業	非登載事業	優先度	A
事業の位置付け	政策目標	3	のびやか・雄武～教育・文化の振興～			
	基本施策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進			
	単位施策	4	図書サービスの充実			
	事務事業の種類		自治事務		法定受託事務	
	その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(見込)	23年度(計画)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額 (一般財源)	2,650 千円	3,650 千円	4,970 千円	5,570 千円	6,170 千円
	合計	2,650 千円	3,650 千円	4,970 千円	5,570 千円	6,170 千円

434

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	子どもたちの「読書離れ」、「活字離れ」が進んでいる。	蔵書冊数2,800冊、町民一人当たり年間貸出冊数10冊			
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	自主的に読書活動を行い、本との出会いによって感動や感銘を受け、豊かな感性や思いやりの心を育むことができる。	蔵書冊数	目標年度	平成21年度	
			目標値	2,800 冊	
			実績値	3,020 冊	
			達成度	107.9 %	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果 = 目的	本のすばらしさや図書館を身近に感じてもらうとともに読書環境づくりへの協力(ボランティア)が得られるようになる。	年間貸出冊数	目標年度	平成21年度	
			目標値	10 冊	
			実績値	6.1 冊	
			達成度	61 %	
内 容(どのような手段で何を行ったか)					
蔵書冊数	今年度購入冊数2,473冊、寄贈図書547冊。なお、今年度は書架2台を購入した。(必要蔵書本の購入及びリクエストに対応している)				
年間貸出冊数	町民一人当たり 6.1冊				

3 事務事業の評価(Check)

(1) 事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか、当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要 / 概ね必要 / 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	公共図書館として町民の学習ニーズに支援することが重要であり、当該事業を実施しない場合、人間形成に大きな影響を与える。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2) 事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効 / 概ね有効 / 課題あり	設定した目標値の達成状況	利用者のリクエストにはおおむね対応できるようになり、貸出冊数も増加している。今後も計画どおり蔵書整備を図りながら利用者に対する利便性の向上に努める。
	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3) 事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的 / 概ね効率的 / 課題あり	判断の理由	5ヶ年で蔵書50,000冊を目標に計画的に進めているところであり、今後も図書館システムの更新等により、更なる業務の効率化を図ることとしている。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4) 事務事業の公平性

公平 公平 / 概ね公平 / 公平でない	判断の理由	図書館が多様な町民ニーズに対応することにより、町民に等しくサービスを提供することが可能となる。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

4 総合評価(A～D)

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B: ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B	B	
今後は、利用者の利便性の向上を図るため、図書館システムの更新を進め相互貸借の一層の活用を推進していく。	同左	

 今後の展開方向 (Action)		
継続 / 現状維持	継続 / 現状維持	
50,000冊の蔵書を計画的に進めるため、現状維持が適当である。	同左	
* 展開方向の区分 継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止		

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--